

## 報 告 書

平成 27 年 11 月 18 日

宮田村議会議長 田中 一男 様  
関係者 様報告者名 春日 元  
赤羽 正  
久保田 秀男  
松田 英俊  
清水 正康

議会産業文教委員会の視察研修を行いましたので、ここに報告致します。

日 : 平成 27 年 10 月 14-15 日  
 項目 : 兵庫県多可町の取り組みについて  
 : 様々な加工所、道の駅について  
 参加者 : 春日元(委員長)、赤羽正(副委員長)、松田英俊、久保田秀男、宮井訓、清水正康、  
 同行者 : 田中一男(議長)  
 詳細 : 下記

## — 兵庫県多可町の取り組みについて

日時 : 10 月 14 日 10:30~12:10、13:30~15:00

場所 : 兵庫県多可町役場

目的 : わが村にも参考になりそうな諸施策を積極的に推し進めている、兵庫県多可郡多可町を訪問し、町の職員の方から直接、施策の内容、取り組み、進行状況等の説明を受けるため。(予め調査回答をお願いしておきました次の 6 点につき、担当の方から説明をいただき、その後質疑応答を行いました)

- ① 暮らしの便利帳発行事業について
- ② 子どもの SNS などの規制について
- ③ 多可町婚活サポート事業補助金制度について
- ④ 特産品認証制度について
- ⑤ 滞在型市民農園について
- ⑥ 多可町ふるさと旅行券について

挨拶・説明者 : 町長 戸田 氏、議長 川崎 氏、議会総務文教  
 常任委員長 山口 氏

高田議会事務局長、植山局長補佐、藤原課長、近藤課長補佐、  
 谷尾課長、藤浦副課長、笹倉課長補佐、板倉主査、梅田主査、

## 町の概要について :

多可町は周囲を中国山脈に囲まれた兵庫県の内陸部に位置し、川と緑に恵まれた自然豊かな町。平成 17 年に近隣三町が合併して郡名をとった新たな多可町として発足し、面積は 185 km<sup>2</sup>余、姫路まで約 45 km、大阪まで約 70 kmに位置。

人口は 22,000 人余、高齢化率は 31.0%、町職員数は 227 人、  
 議会議員定数は 14 人、27 年度一般会計予算は 1,254 千万円等。

(その他は資料参照)

町の特性 (1)酒米の最高峰「山田錦」、(2)7世紀後半から受け継がれる「手漉き和紙」、  
 (3)そして超高齢化社会を迎え、その精神を受け継ぎたい「敬老の日」・・・「三つの発祥の地」に見ることができる。



### (1) 酒米の最高峰「山田錦」発祥の地

多可町は日本一の酒造好適米「山田錦」の発祥の地で、誕生してから70年を迎えた平成18年3月5日には、地方自治体として初めて「日本酒で乾杯の町」を宣言しました。また毎年10月1日には「加藤登紀子日本酒の日コンサート」を開催しており、今年で18年目となり、「登紀子ブランド酒」は、即日完売となっています。

### (2) 日本一の手漉き和紙「杉原紙」発祥の地

古来より日本一の名紙と謳われた手漉き和紙「杉原紙」は1300年の歴史を誇ります。平成14年からは「宮中歌会始」の専用和紙の栄に浴し、平成18年に開催された「のじぎく兵庫国体」では賞状用紙として使われました。

その歴史は奈良時代後半にまでさかのぼり、江戸時代に最盛期を迎えたものの、その後西洋の製紙技術の流入により、大正時代には歴史の幕を一旦閉じましたが、昭和47年に復興の機運が高まり生産を再開、現在では原料である楮(こうぞ)の木の栽培を「一戸二株運動」として定着させるなど、「町民の心の誇り」として「杉原紙」の歴史と伝統を守っている。

### (3) 継承すべき精神「敬老の日」発祥の地

多可町は「国民の祝日・敬老の日」の発祥の町でもあります。戦後の動乱期(昭和22年9月15日)野間谷村(現多可町)で全国で初めて、村主催の「敬老会」が開催されました。その後国や県に広く働きかけ、昭和41年に「敬老の日」は体育の日などと共に、国民の祝日に加えられたのです。

敬老の日発祥の町を記念して行われる「おじいちゃん・おばあちゃん児童画展」には、全国からたくさんのお誘いがあります。また高齢者を敬う気持ちと温かい思いやりの心を次世代につないでいきたいとの思いがこめられた、敬老の歌「きっとありがとう」を、平成26年にCD化して、全国に発信しています。多可町では豊かな心を育む施策を充実させながら、先人の「敬老の精神」をより強く受け継いでいます。

## あいさつ

はじめに河崎町議会議長、戸田町長をはじめ、町政運営に中心的に携わっている方から、挨拶と自己紹介を兼ねて、町の紹介をいただきました。

先に述べましたように、多可町は「三つの発祥の地」を中心に据えて、それぞれの立場において、確信を持って町政に取り組んでいられるように感じました。

また、この地域の風土を活かした産業をつくりたい、、、との想いの元、ラベンダーでの6次産業や有害鳥獣をペットフードにする事業(障がい雇用も検討)、健康保養地づくり、、、などに取り組んでいるそうです。

宮田村議会としましては、田中議長が返礼の挨拶をしました。

## 内容

### ① 暮らしの便利帳発行事業について

自治体の行財政改革が推進される中での、パブリック・プライベート・パートナーシップ(PPP)による官と民の連携事業であり、住民サービス向上の手段として、注目されている。

これは、行政の財政負担を伴わない行政情報の発信と、地域事業者からの情報提供・広告掲載により発行から配布までされた「行政と地域を結ぶガイドブック」。大阪に本社を置く(株)サイネックスが自治体と協定書を結び作成して、10月に全戸配布している。伊那市、南箕輪浦、辰野町などもこの会社と提携して発行している。写真・資料を



町より提供し、広告スポンサー集め・編集・配布まで一括してこの会社が行っていた。

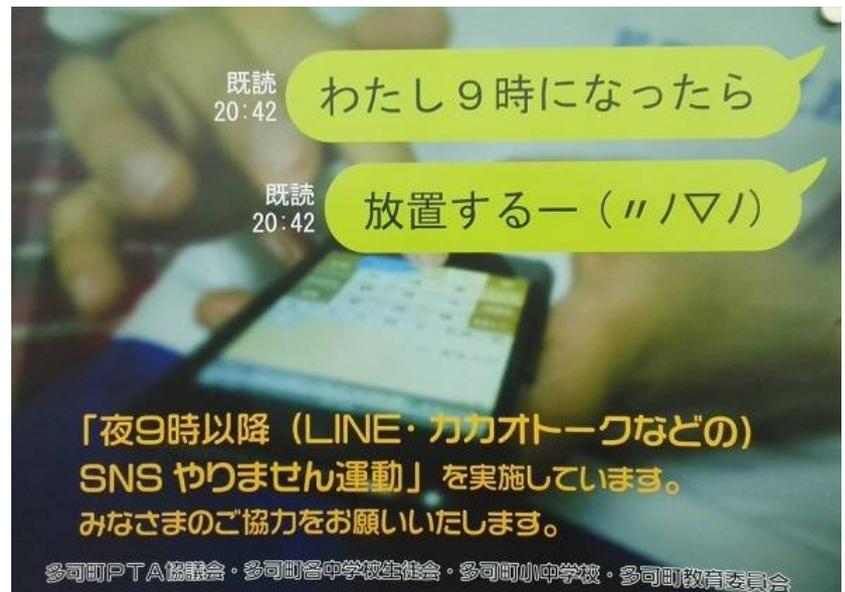
通常の広報の広告料は一マス 15,000 円(二色刷り)だが、この情報誌の一マスは 60,000 円。当初は「高い！」と言われたが「3 年間は更新せず使うもの」ということで、逆に割安であることから受け入れられた。情報と広告がリンクされていて(例えば、生活のページに水道業者の広告がある)、とても便利と好評。

## ② 子どもの SNS などの規制について

多可町はまだ深刻ではなかったが、スマホ、携帯電話の交流サイトは、いじめの温床となる可能性があることから、H25.12：携帯スマホの使用状況のアンケート、H26.5：

PTA 連絡協議会総会にて運動開始を提案し、子供たちの SNS の適切な利用を促した。そして PTA 協議会、全小・中学校、教育委員会、各中学校の生徒会が一体となって、「夜 9 時以降 SNS やりません運動」と名付け H27.7 開始した。各小・中学校は横断幕を掲げ、200 枚のポスターは学校内外に張り出した。

H27.10 子供たちが自分たちの問題として認識し、それぞれの学校(生徒会)で考えて貰うようになった。



## ③ 多可町婚活サポート事業補助金制度について

2013.2.12 テレビ番組「もてもてナインティナイン SP」放送(費用は約 440 万円、女性の応募は 636 名あり 98 名に絞った。実行委員会を立ち上げ、男性の為のマナー講座など町を上げて女性をお迎えした。15 組のカップルが生まれ、参加者から 8 組が結婚した)。それをきっかけに気運が高まった。平成 26 年 11 月に多可町婚活ネットワーク協会を設立、事務所は役場内に置く。予算は町から補助金 120 万円で運営し、男性婚活セミナーや婚活イベント(男性はおくてなので、イベントの前にセミナーや模擬デートを行う)などを実施している。また、随時個別男女の引き合わせもしている。

11 月 22 日(土)に行う予定のイベントは、余暇村公園内で「恋と松茸さがしちゃお！」というタイトルで、25~50 歳の多可町在住で結婚したい男性(参加費 4,000 円)、地域を問わず結婚したい 20~45 歳の女性(参加費 2,000 円)を募集して行うそうです。

## ④ 特産品認証制度について

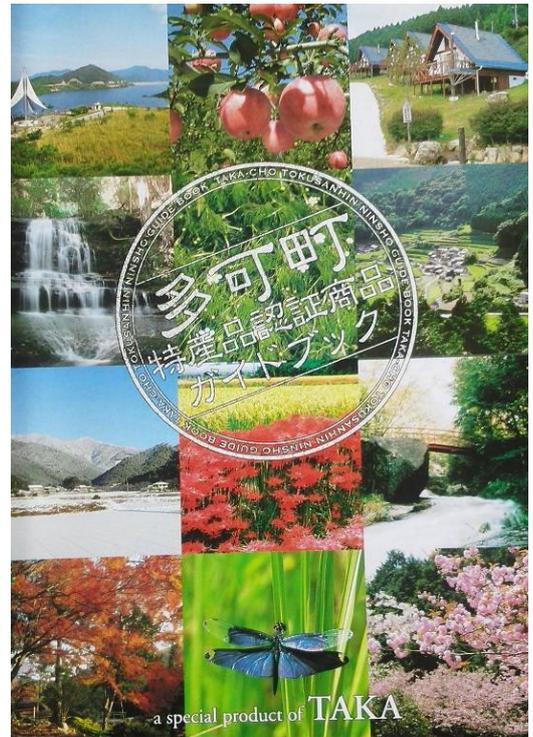
多可町では町内の事業所で製造した製品や加工品を、多可町のブランドの特産品として認証し、信頼できる優れた多可町産の特産品として、全国に発信する「多可町特産品認証制度」に取り組んでいます。

この制度の基本的な理念として

- イ) 多可町へのこだわり
- ロ) 商品へのこだわり
- ハ) 信頼性へのこだわり
- ニ) 優れた商品としてのこだわり

・・・を追及しつつ、特産品の競争力の強化を図るため、「多可町特産品認定要綱」が策定されています。要綱には認証に必要な事項を検討する「多可町特産品認証委員会」「認証基準」「認証申請・決定」「認証マーク表示」「有効期限・取り消し」等が定められています。

- 「多可町特産品認証商品ガイドブック」を配布（認証品は現在96品目）
- 「FB良品TAKA」として、フェイスブックを利用した、通販サイトを開設した。  
（ふるさと納税の商品としても使用したい）
- 認証は事業者にとって励みとなっている。



#### ⑤ 滞在型市民農園について

滞在型市民農園は1993年に、日本で初めて多可町の「フロイテン八千代」と長野県の「坊主山クラインガルテン」が開設されて以来各地に広がり、現在は全国に60か所以上あり、ちなみにに第一位は長野県の17箇所、第二位は兵庫県の11か所である。

この分野で先駆的な役割を果たした多可町は、現在4か所125区画の市民農園を運営しており、そのうち3か所は10人程度の待機者がいる程で、姫路、大阪等、関西の大都市に近いことが盛況の理由として挙げられる。

一区画あたり・入会金30~40万円・年間利用料金30万円~40万円・敷地面積：200~300㎡・コテージ：木造1~2階20~40㎡・付帯施設：管理棟、共同広場等

○滞在者と地元民、自治体等とのトラブルはほとんどない。

○滞在者から多可町へ、Uターン・Iターン等として、移住に発展した例は、現在のところない。

#### ⑥ 多可町ふるさと旅行券について

多可町では「地域住民生活等支援交付金」を活用して「ふるさと旅行券助成事業」を実施している。前期交付金を活用し、「ふるさと旅行券」を発行して、町内での宿泊を対象とした割引事業を実施し、多可町への旅行需要の底上げ、宿泊観光客の増加、周辺観光施設への周遊促進を目的としている。

この事業は多可町が「多可町観光交流協会」に委託して行っており、額面一万円の旅行券「よう来ちゃったな」3,300枚を、町内宿泊施設、役場等で販売、7月1日から発売したが9月半ばには、完売となった。利用期間は平成27年7月1日から12月31日までで、利用場所は多可町内にある宿泊施設に限られる。今後宿泊客の増加が期待でき、最終的に多可町の市場創出と消費喚起に繋がればと考えている。

#### 考察・提案など

「暮らしの便利帳発行事業」…行政負担ゼロでの取り組みとして、村政60周年記念事業としても、宮田村でも行うべきと感じた。ただし、地元の印刷業者などにも声をかけ、できれば地元業者を使ってできないか、検討しても良いのではないか。

「子どものSNSなどの規制について」…多可町と同様宮田村も今は深刻な状況ではないが、ネット社会の中でトラブルに巻き込まれないためにも、親や学校だけではなく、地域全体として取り組むべき。

「多可町婚活サポート事業補助金制度について」…地域として気運を高めるべきと感じた。どう高めるかは、検討の余地あり。

「特産品認証制度について」…宮田村もふるさと納税が盛んになる中、村内の商品選んでもらうためにも取り組むべき。

「滞在型市民農園について」…今現在、村内に適した農地や宅地がない中では、ちょっと難しい事業かもしれないが、空き家と農地の組み合わせは、可能性はあるのではないか。

「多可町ふるさと旅行券について」…宮田村は、合宿補助制度(合計20泊：10人×2泊でもOK)があるが、このような事業が可能かどうか、検討の余地あり。

国が指導する総合戦略を「過大評価はしないが有効に使いたい」ということで、基本的には今ある施策に合わせた形で策定したところ、兵庫県下の市町村で一番最初に総合戦略が策定できたそうです。「補助が出るから何かやらなきゃ」ではなく既に取り組んでいた事業に落とし込んだということで、素早く策定もできたそうです。しかしそれでいて、様々な新事業に取り組む姿勢もあり、また、地域も巻き込んでいる事案もいくつもあり、大きな刺激を頂きました。



## — 各地の加工所、道の駅の取り組みについて

日時 : 10月15日

### ① 甲賀ブランド

豊かな自然に囲まれ、信楽や甲賀流忍者の里として広く知られる甲賀（こうか）市。東海道の宿場としても賑わいをみせた甲賀は、長い歴史の中で多くの資源と共に、独自の文化を築いてきました。そんな甲賀独自の豊富な資源を活かして、観光に関わる地域産品等をブランドとして認定し、甲賀ならではの価値あるモノ・コトを国内外の多くの方に広く、長く愛されるようにと作られたもの。それが「甲賀ブランド」です。



場所 : 滋賀県甲賀市

目的 : 市認定のブランドの調査。特に個人経営、地域での取り組みでの加工品の調査を目的とする。

内容 1 : お茶農家の店「茶のみやぐら」

日本5大銘茶と言われる宇治、静岡、狭山、八女、朝宮。その「朝宮茶」を一個人農家が生産から加工販売まですべてを家族で経営しているお茶農家で農林水産大臣賞受賞農家でもある。滋賀県甲賀市朝宮は標高400メートルの山間にあり朝夕の寒暖の差が激しい事で立ち込める霧が芳醇で薫り高いお茶を育ててくれます。

平安時代の初めから煎茶の栽培が始まったとされる古い歴史はありますが一時は衰退した茶産業を一農家の奮起により地域ブランドとして再興し茶葉だけでなく抹茶ロールケーキや渋みを生かした「煎茶オトナロール」等を開発販売、また抹茶アイスやプリン3兄弟と銘打った抹茶、煎茶を使ったプリンも製造販売しており売店で無料サービスのお茶と共に味わうことが出来ました。



内容 2 : 農業法人有限会社「甲賀もち工房」

この小佐治地域は300万年前は琵琶湖の底であった事から重粘土質の土壌がもたらす餅米の品質は天下一品とされており正月用の餅米として天皇陛下にも献上され続けられた。

その餅米を地域おこしの原動力にしようと6次産業化に取り組み平成14年には地域活性化の優良事例として「豊かなむらづくり全国表彰事業」で農林水産大臣賞を、平成24年には全国農業コンクールで優秀賞を受賞した。

併設経営している「もちふる里館」では杵つきもちにどこまでも拘った餅やその加工品販売と共に新鮮でおいしいもち料理を味わうことが出来ました。近年では「米粉」を使った商品開発にも力を入れているとの事でした。

**考察：**

個人経営で行っている加工所、地域で法人化して加工品を提供しているところと二か所見学をしましたが、双方ともその地の農産物を活かした取り組みでした。加工をすることで付加価値をつけ販売しています。宮田村でも食ごころさんがありますが、さらに農業を活かすために、農家を活かすために、必要な加工施設の検討が急がれます。

**② アグリの郷栗東**

**場所：** 滋賀県栗東市出庭 961 番地 1

**目的：** 駐車場 38 台、トイレ男性女性それぞれ 5 器と小規模ながら、全国道の駅ランキングで上位にランクインしている道の駅を調査する。

**内容：**

今回の産業文教委員会視察での最終目的地、滋賀県栗東市の道の駅“アグリの郷栗東”は、地元栗東の特産品を美味しく、楽しく提供するスペースであり、明るい店内では、地元の新鮮な野菜、栗東産の米、いちじくその他、農産物加工品、地元産大豆使用で違いが分かる豆腐、滋賀県産もち米をきねつき加工した餅、旬のフルーツを使った各種パン、ジェラートの製造販売、四季折々の新鮮野菜を使った定食、そば、うどん、カレーの味を楽しめるレストランがあり、店内の品数、種類の多さは写真に示す通り満足できるもので、駐車場 38 台、トイレは男女それぞれ 5 器と小規模ながら、大変参考になる活気ある施設でした。

宮田村でも何度か検討され断ち切れとなっている同様の施設は、今後村内での特産品、販売、地元野菜・果樹、減農薬米などを中心とした飲食の提供は、東京、名古屋、大阪等々で宮田村の良さを紹介しながら各種取り組みを行っている現状を鑑みの中で、駒ヶ岳を中心にこの地を訪れる観光客の要望にも充分応えられる事を実感できる視察となりました。



**まとめ**

兵庫県多可町の取り組みは、その姿勢と含め、大きな刺激を頂くとともに、宮田村でも行うことができる事業がいくつもありました。地域を巻き込みながら進めるよう、議会でも提案しなければいけません。

加工所は何を扱うかが重要、道の駅は品数や店舗がある程度多くなければ魅力がない、そんなことを改めて感じました。宮田村でも道の駅などの施設を期待している人がありますが、成功事例と失敗事例を参考にし、成功するように計画を立てなければいけません。